



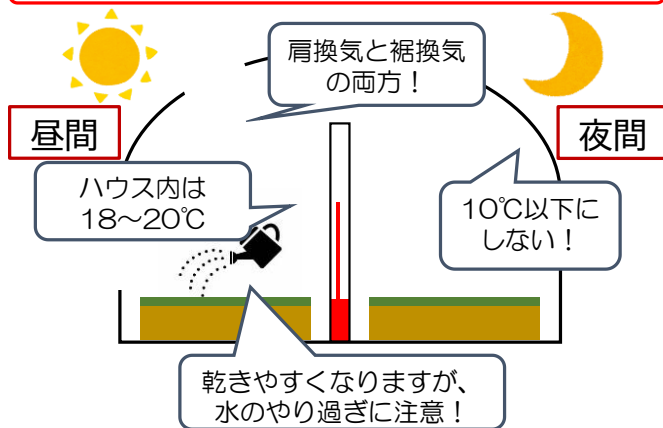
育苗管理について（後半）

近年は、育苗後半の気温が高くなる傾向が見られ、『早期異常出穂（不時出穂）』のリスクが高まっています。

早期異常出穂とは、7月上・中旬に主稈だけが先走り、異常に早く出穂する現象のことです。早期異常出穂した稲は、穂揃いが極端に悪くなり、収量・品質とも大きく低下します。早期異常出穂を防ぐために、温度管理に十分注意し、早期移植に努めましょう！

① 1.5～3.0 葉期の管理ポイント

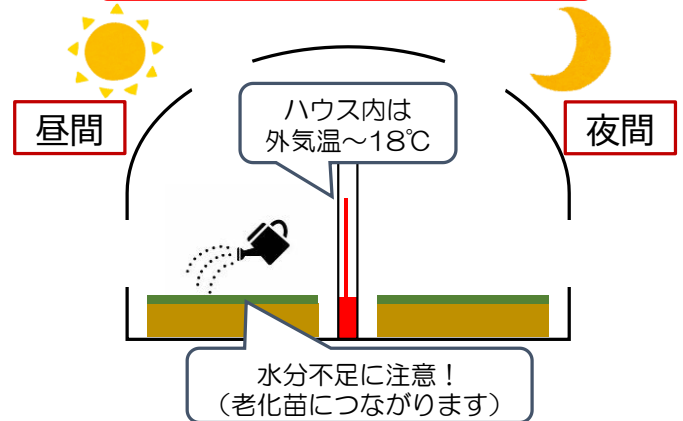
高温にならないよう注意し、徒長や異常出穂を防止！



- 温度 日中：18～20°C
夜間：10°C以上
- 高温を避けて、徒長防止に努める。
- かん水は晴天日の午前10時までに終わらせ、一度に十分な量を行う。
- 気温が20°C以上の日や、晴天日は早朝から換気を行い、夕方は早めに閉じる。

② 3.0 葉期～移植前の管理ポイント

肩・裾換気で外気温にならしましょう！



- 温度：外気温～18°C
- 晩霜に注意し、外気温に十分ならず。
- やむなく育苗期間が長くなる場合は、老化苗防止のため追肥を行う。

高温・多かん水は、徒長や過湿障害の原因に繋がります！



③ 早期異常出穂対策（重要！！）

（原因）① 育苗期間の延長（老化苗の原因にも！）

② 2.5 葉期以降の25°C以上の高温 特に成苗ポットでは注意！

（対策）① 十分な苗形質に達した時点で早期に移植する。

② 日中の高温時は、裾換気も行い外気と同じ温度になるように管理する。